

あなたと博物館

松本市立博物館ニュース No.156 2008.5.1



松本市島内青島の播隆念仏講

播隆展

岳都松本企画展「槍ヶ岳開山とその周辺」

第9回播隆シンポジウム「山の播隆」参加無料

【会期】5月25日(日)午前9時30分～午後4時 【会場】松本市中央公民館Mウイング6階ホール

同時開催 企画展「播隆が歩いた上高地と槍穂高連峰」

【会期】5月17日(土)～6月25日(水) 休館 木曜日

【開館時間】午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【会場】安曇資料館



北穂高岳尾根より(撮影 鹿野しんじ氏)

平成20年 5月17日(土)・6月15日(日) 会期中無休

【開館時間】午前8時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【入場料】大人200円(180円) 小人100円(90円)

()内は20名以上の団体料金 ※松本城の入場料は含みません

松本市立博物館
BANRYU TEN

もくじ

誌上博物館◇播隆上人の槍ヶ岳開山 … 2-3
ひとの動き …………… 4
ガイドコーナーはんでんぼく …………… 4

播隆上人像(上條俊介作・昭和54年)

播隆上人像

播隆上人の槍ヶ岳開山

はじめに

ネットワーク播隆が主催する第9回播隆シンポジウム「山の播隆」が、松本市で開催されるのにあわせ、松本市立博物館では企画展「播隆展—槍ヶ岳開山とその周辺」を開催することにしました。

平成17年の「大合併」で、槍ヶ岳は松本市の一部となり、奇しくも今年は開山180周年という節目の年にあたります。

本稿では、穂苅三寿雄、貞雄両氏の先行研究(※1)や、ネットワーク播隆の研究をもとに、播隆の槍ヶ岳開山について、特に「なぜ、槍ヶ岳を開こうとしたのか」を探ってみたいと思います。

時代背景

播隆が、初めて槍ヶ岳に登ったのは、文政9年(1826)のことです。このとき、頂上を極めたか否かについては異論(※2)のあるところですが、2年後の文政11年に阿弥陀、観音、文殊の3像を安置し開山をなしたというのは定説となっています。

松本平周辺の江戸時代における山岳信仰の動きを見ると、享保6年(1721)に地元板取村の修験者宝重院宥快らが有明山に登っています。下って天明5年(1785)に、尾張の行者覚明が木曾の御嶽に軽精進登山を敢行し、7年後の寛政4年には代官から軽精進登山の許可が下りています。この年、御嶽の王滝口から武蔵の行者普寛が登山し、2年後の寛政6年に開山をなしています。また、槍ヶ岳開山に先立つこと9年、文政2年には地元の修験者大宝院明覚と神田紺屋町の梅本院永昌により、乗鞍岳も開山されています。

このように、江戸時代の中ごろから、それまで山麓から仰ぐ山への信仰が、山へ登ることにより、そこに坐す神仏と一体化する方向へと変化を見せています。

山を開くということ

ここまで、何度か「槍ヶ岳開山」と記してきましたが、では「開山」—山を開くとはどういうことでしょうか。小学館の『大辞泉』には「《寺を山に建て、寺が山号で呼ばれたところから》
㊦ 仏寺を初めて開くこと。また、開いた僧。開基。
㊧ 一宗一派を初めて開いた僧。祖師。開祖。(以下、省略)」とあります。ここでの開山という言葉は、寺の伽藍を築くことと同じで、修行の場所を整備

することをさしているのです。したがって、播隆が初めて槍ヶ岳に登ったのは文政9年ですが、開山は文政11年ということになるのです。

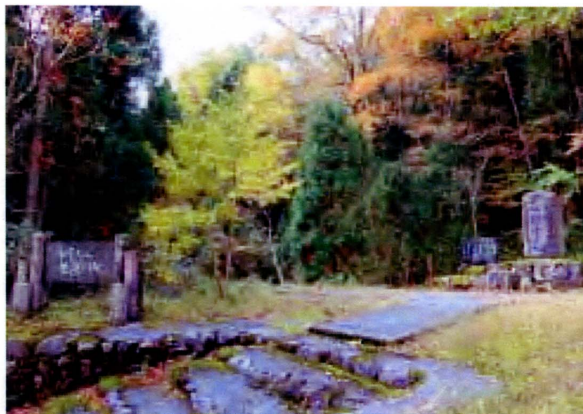
木曾の御嶽は古代以来の霊山として知られていますが、王滝口からの登山道を整備した普寛は開山者として認められています。一方、有明山では、文政10年に善光寺修験柳原音界が登頂し、後に開山者を僧称しますが、有明山社など地元の宗教者と訴訟になり、江戸表にまで上り寺社奉行で敗訴し、日本半国追放の刑に処されています。このことは、享保6年の宝重院宥快の登山により、すでに有明山が開山されたと認識されていたことを示しています。

出家

播隆は、槍ヶ岳開山の前に笠ヶ岳を再興しています。この笠ヶ岳再興が、播隆を槍ヶ岳開山に向かわせたといわれています。どういうことでしょうか。

播隆は、越中国河内村(現在の富山市大山町)の真宗道場に、次男として生まれました。播隆は仏門に入ることを望みましたが、次男という立場からなかなか出家が許されなかったようです。後に出家の願いはかなうものの、浄土真宗による出家は許されず、日蓮宗から出家しました。しかし、1年余りでそこを離れ、浄土宗の宝泉寺の見仏上人、次いで一念寺の嶋誉上人の弟子となり修行に励みます。

しかし、当時の仏教界には播隆の求める清浄さはなく、失望した播隆は念仏専修を決意し寺を離れることとなります。このことは、文政元年に播隆が生家に送った『諸宗皆祖念仏正義論』に詳しく記されています。

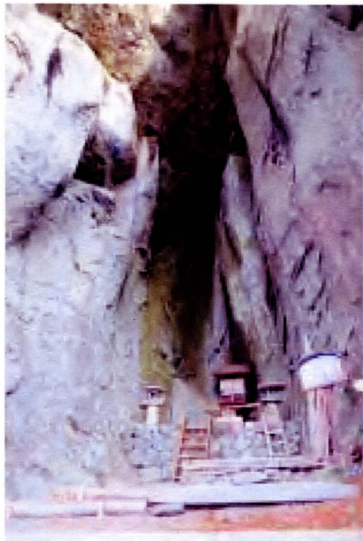


播隆生誕の地

笠ヶ岳再興

寺を捨てた播隆は、伊吹山や南宮大社奥院などで修行を積み、文政4年、飛騨国の杓子窟しやくしのいへんに修行に訪れています。翌5年にも杓子窟に修行に訪れ、笠ヶ岳再興を思い立ちます。

笠ヶ岳は、本覚寺を再興した道泉が登山して以来、元禄年間(1688～



1704)には円空が、杓子窟

天明2年には南裔なんがいが登っています。この登山の折、円空は大日如来を、南裔は阿弥陀、薬師、不動の3尊を安置したといわれています。

播隆は、2度目の杓子窟における修行で笠ヶ岳に登り、このような名山なのに道が開かれていないために参詣の人が訪れないことを嘆き、登山道を開くことを決意します。本覚寺に相談し、南裔の登山の案内役を務めた名主・今見氏の協力を得て、発願からわずか50日で登山道を開いています。

文政6年8月5日、播隆はこの事業の報酬として18人の同行者とともに笠ヶ岳に登っています。このとき、山頂で御来迎に遭遇しました。播隆はこのときの様子を『迦多賀嶽再興記』に次のように記しています(部分引用)。

時ハ早七ツ過、日光ハ西海ノ雲ニ隠レ玉フ、山ハ浮雲ニ包マレテ、四方共ニ弁エ難シ、一心念仏ノ中、不思議ナル哉、阿弥陀仏雲中ヨリ出現シ玉フ事三度也

七ツ過ぎという時刻は日没間近です。中秋を迎えようとする季節ですから、日没の方向は真西に近かったでしょう。御来迎が現れたのは東方ということになります。このときは、周囲は雲に覆われていましたが、播隆はその方向に屹立する槍ヶ岳を知っていたはずです。

翌文政7年、播隆は66人の同行を得て、登山道に道標の石仏を、頂上に阿弥陀仏を安置し、笠ヶ岳再興事業を成し遂げています。このときの登頂でも御来迎に遭遇しています。

槍ヶ岳開山へ

播隆を槍ヶ岳開山に向かわせたのは、笠ヶ岳再興を成し遂げたときに現れた御来迎なのです。阿弥陀仏の住む槍ヶ岳へ登り、阿弥陀仏と同化することこそ播隆の最大の願いだったのです。

当時信濃国では、槍ヶ岳といえば現在の鹿島槍を指しています。国絵図に記された「鑪嶽」も鹿島槍です。松本城からも尖端を仰ぐことのできる槍ヶ岳ですが、江戸時代の信濃国ではなじみが薄かったようです。

いっぽう、飛騨国では、延宝5年(1677)に著された『蒲田温泉記』に「鎗嶽」の記述があるようで、古くから親しまれていたようです。しかし、その飛騨にあっても槍ヶ岳の案内人を見つけることは難しかったようです。播隆は、槍ヶ岳への道を探して信濃国に現れます。

当時、信濃側では、岩岡村庄屋を中心に、飛騨を経由して加賀・越中を短絡する新道の建設が進められていました。飛州新道と呼ばれるこの道の開削は、信濃側では松本藩の援助がありましたが、飛騨側の理解は得られませんでした。新道開削の中心人物に、小倉村の中田又重がいました。

文政3年(1820)、飛騨側の理解は得られないまま飛州新道開削は着工しましたが、又重は、工事と並行し飛騨側で新道開削の願人を申し出してくれる人を探していました。そんな折、又重は本覚寺の椿宗和尚に相談することを勧められ、文政5年に面識を得ています。播隆は、槍ヶ岳開山を椿宗和尚に相談し、飛州新道開削の中心人物である又重を紹介されたのでしょう。

おわりに

こうしてみると、播隆の槍ヶ岳開山は、同時期になされた霊山開山とは、一線を画しているように思われます。念仏専修の遊行僧が、阿弥陀仏と同化することを求めてたどり着いたのが槍ヶ岳開山なのです。さらに、多くの人々が阿弥陀仏と同化する道を設けるのが、播隆の目的でした。天保11年(1840)、槍の頂に鉄鎖を掛けることでその目的を成し遂げ、播隆は阿弥陀仏の世界へ旅立ちました。

(旧制高等学校記念館学芸員／木下 守)

※1『槍ヶ岳開山 播隆』(増訂版)を参考とした。

※2『開山晩鐘 播隆大和上行状略記』に、文政9年の登山のとき、百間の立岩の絶頂に播隆が一人で登って一夜を明かしたとあるが、『信州鑪嶽雲縁記』は文政11年秋に初めて頂上に登ったとしている。

[写真提供] 山本 信雄

ひとの動き

4月1日付で、次のように職員の転入及び退職・転出がありました。()内は所属。

転入 よろしくお願ひします。

[博物館長] 胡桃 孝好
 [館長補佐] 丸山 俊明
 [館長補佐] 塩原 いさを
 [館長補佐] 川村 修
 [主査] 遠藤 守(窪田空穂記念館)
 [事務員] 一ノ瀬幸治(新規採用・本館)
 [所長(嘱託)] 宮島 吉秀(旧開智学校)
 [館長(嘱託)] 岡田 賢信(考古博物館)
 [嘱託] 坂口 正雄

[嘱託] 横山 亜希(本館)
 [嘱託] 和田 裕也(本館)
 [臨時] 森田真規子(本館)
 [臨時] 手塚 愛(本館)
 [臨時] 大橋 春菜(本館)
 [臨時] 本林 直美(本館)
 [臨時] 上原 千佳(窪田空穂記念館)
 [臨時] 保野野宏江(馬場家住宅)
 [臨時] 吉澤香代子(歴史の里)

退職・転出 お世話になりました。

[博物館長] 小松 正直(退職)
 [館長補佐] 塩崎 裕(本館→労政課)
 [係長] 松田 佳子(本館→商工課)
 [主査] 田川恵美子(窪田空穂記念館→市民課)
 [主事] 小澤 弥生(旧制高等学校記念館→保険課)
 [所長(嘱託)] 市川 孝子(旧開智学校・退職)
 [嘱託] 山岸 勝宣(本館・退職)
 [嘱託] 中川 幸子(本館→松本城管理事務所)
 [嘱託] 藤岡磨美子(本館→公園緑地課)
 [嘱託] 上條 明彦(旧開智学校・退職)
 [臨時] 手塚 直美(窪田空穂記念館→生涯学習課)
 [臨時] 三浦 薫子(歴史の里→公設地方卸売市場)

課内異動 職場がかわりました。

[主査] 木下 守(本館→旧制高等学校記念館)
 [嘱託] 岩原 靖(考古博物館→旧開智学校)
 [嘱託] 西村 奈美(馬場家住宅→民芸館)

ガイドコーナー はんでんぼく

松本市立博物館から ☎0263-32-0133

ぐるっとまる博バス

期 日 6月26日(木)
 行 程 歴史の里→窪田空穂記念館→アカデミア館
 →安曇資料館
 募 集 広報まつもと6月1日号でご案内します

旧開智学校から ☎0263-32-5725

「浅井 洸」展

期 日 5月24日(土)～8月31日(日)
 観覧料 通常観覧料

考古博物館から ☎0263-86-4710

第30回あがたの森考古学ゼミナール
「縄文人たちの出会い」(全2回)

期 日 ①7月5日(土)午後1時30分～3時
 第1回「人と物の交流」
 講師/島田哲男氏(大町市文化財センター所長)
 ②7月19日(土)午後1時30分～3時
 第2回「胎土分析から探る縄文人の動き」
 講師/水沢教子氏(長野県立歴史館学芸員)
 場 所 あがたの森文化会館2-8教室
 定 員 各回60名程度
 申込み 6月10日(火)午後1時から電話で
 (定員に達し次第締め切り)

時計博物館から ☎0263-36-0969

時の記念日事業 企画展「おもしろ時計展」

会 期 5月31日(土)～7月6日(日)
 場 所 時計博物館3階 企画展示室
 観覧料 無料(常設展は、別途観覧料が必要)

関連事業「古時計説明会」

期 日 6月7日(土)・8日(日)
 ①午前11時～ ②午後2時～

はかり資料館から ☎0263-36-1191

「工芸の五月」

会 期 4月29日(火)～5月25日(日)まで
 観覧料 無料(常設展は、別途観覧料が必要)

松本民芸館から ☎0263-33-1569

企画展「瀬戸・美濃のやきもの」

会 期 4月22日(火)～6月8日(日)
 観覧料 通常観覧料

体験講座「布ぞうりづくり講習会」

期 日 5月11日(日)午前10時～午後3時
 参加料 1,800円(材料費、入場料を含む)
 申込み 5月10日までに民芸館へ

講演会「すまいと民藝」

期 日 6月15日(日)午後1時～3時
 講 師 降幡廣信氏(長野県民芸協会会長)
 申込み 不要

窪田空穂記念館から ☎0263-48-3440

空穂茶会

期 日 5月11日(日)午前10時～午後3時
 (受付は午後2時30分まで)
 場 所 空穂生家
 茶 券 1,500円(濃茶、薄茶の二席)

短歌講座

期 日 ①6月 8日(日) 講師/篠弘氏
 ②7月13日(日) 講師/岩田正氏
 ③9月14日(日) 講師/橋本喜典氏
 ④10月5日(日) 講師/来嶋靖生氏
 毎回午後1時40分～3時40分
 場 所 空穂生家 受講料 各1,500円

子ども短歌教室

期 日 6月28日(土)午前10時～正午
 対 象 中学生以下の児童・生徒及び家族
 講 師 三浦慎子氏 場 所 空穂生家

短歌の教え方講座

期 日 6月28日(土)午後1時～3時
 対 象 教職員及び希望者
 講 師 三浦慎子氏 場 所 空穂生家

旧制高等学校記念館から ☎0263-35-6226

「あがた美術会作品展」

会 期 4月26日(土)～6月15日(日)
 午前9時から午後5時まで
 観覧料 無料

重文馬場家住宅から ☎0263-85-5070

お茶席の会

期 日 ①5月18日(日)おしやれ茶道の会(裏千家)
 ②6月29日(日)松風の会(表千家)
 毎回午前10時～正午
 参加料 通常観覧料のみ

「五月人形展」

会 期 5月10日(土)～6月8日(日)
 内 容 月遅れの端午の節句にあわせ、押絵
 雛による五月人形を展示します。
 観覧料 通常観覧料

企画展・播隆展

本館と安曇資料館ではネットワーク播隆の播隆シン
 ポジウムに合わせ、槍ヶ岳を開山した播隆上人に関
 する企画展を開催します。

企画展「播隆展—槍ヶ岳開山とその周辺—」

会 期 5月17日(土)～6月15日(日)
 会 場 松本市立博物館

企画展「播隆が歩いた上高地と槍穂高連峰」

会 期 5月17日(土)～6月25日(水)
 会 場 安曇資料館
 営 業 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 料 金 一般100円 小中学生50円
 T E L 0263-94-2134

第9回 播隆シンポジウム

期 日 5月25日(日) 午前9時30分～午後4時
 会 場 松本市中央公民館「Mウイング」6階ホール
 参加費 無料

9:30-10:00 開場・受付
 10:00-10:30 開会・挨拶
 10:30-11:10 第一講「槍ヶ岳と播隆の国際化」
 アイオワ大学助教授/スコット・シュネル
 11:10-11:50 第二講「山の播隆、槍ヶ岳念仏講の成立」
 「ネットワーク播隆」代表/黒野こうき
 12:00-13:30 〈昼食〉※播隆展の見学(有料)
 13:30-14:10 第三講「近代登山における登拝信仰」
 登山史研究家/布川欣一
 14:10-15:40 パネル討論会「槍ヶ岳開山と松本平の足跡」
 [パネラー]三郷村誌編集委員長/降旗正幸
 旧制高等学校記念館学芸員/木下 守
 布川欣一
 [進行]黒野こうき
 15:40-15:50 閉会・挨拶

あとがき

歴史の里では「明治憲法下裁判体験」が人気です。昔の判事などの法服・法冠を身につけて壇上に着座し、ボタンを押すとお芝居仕立ての音声の流れる簡単なものですが、特に団体旅行の方は「その場で盛り上がり」、台詞を思い出しては「移動のバスの中で」「その夜の宴席で」と都合3回楽しめること。体験の共有がポイントのようです。(KU)

あなたと博物館 No.156

発行年月日/平成20年5月1日 編集・発行/松本市立博物館
 〒390-0873 松本市丸の内4番1号 Tel.0263-32-0133
 URL: http://www.city.matsumoto.nagano.jp
 e-mail: mcmuse@city.matsumoto.nagano.jp 印刷 川越印刷株式会社